

平成 25 年 3 月 22 日

自己評価による自己点検・学校関係者アンケートの結果を受けて
(世田谷区立八幡中学校 自己評価報告書)

I 分掌の課題と解決に向けての取組

1 教務

(1) 学習指導について

ア 生徒の授業の理解度と教職員の授業の工夫・改善への取り組みについては、肯定的評価が4年連続で上昇した。「わかりやすい授業」については生徒で2ポイント上昇し、86ポイントと高い数値となった。生徒に基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をさせる指導の工夫を、今後も継続していく。

イ 「通知表の評価は納得できる」については、昨年度より肯定的評価が上がり生徒で79ポイント、保護者で70ポイントであった。今後も資料に基づき適正に行っていく。また、生徒と保護者の評価の差を埋めていけるよう、評価方法の丁寧な説明などを行っていく。

(2) 学校行事について教員は生徒の意欲を大切にしたい指導を行っている。生徒も意欲的に取り組んでいる。「楽しみにしている学校行事がある」については、生徒の肯定的評価が90ポイント、保護者が94ポイントと昨年度に引き続き高い数値となっている。今後も生徒が自主的に活動しやすい環境をつくり、意欲を伸ばしていく努力を重ねていく。

2 生活指導

(1) 保護者、地域とも「本校では、子どもたちに問題行動となる行動が少ない」の肯定的評価が上がり、生徒の「わたしは学校のきまりを守って行動している」も上昇している。生徒自身の意識の高まりが行動に表れた結果といえる。生徒の意識を下げず、より向上できるよう指導にあたりたい。

(2) 昨年度と同様、「先生に指導されたことは納得できる」「先生はいつも熱心に指導している」では肯定的評価は高く、「先生は、誰に対しても、公平である」は低い評価である。しかし若干向上が見られた。それは「先生は、よくわたしの話を聞いてくれる」が上昇したところから、教員の生徒指導に対する評価であると考えられる。今後は今以上に生徒との関わりを大切にしたい指導を心がけ、公平性も高められるよう努力していく。

(3) 安全指導、避難訓練、災害時の対応については大幅に肯定的評価が向上した。今年度から集団下校・引き渡し訓練を実施し、下校方法を調査したことが結果につながったと考えられる。しかし施設の安全性については全体的にはまだ低い評価である。必要な箇所は区へ申請し、随時、修繕していく。

3. 進路指導（キャリア教育）について

（生徒）

（1）将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある。

- ・ 肯定的評価は微増している。年度別（75→79→75→78%）
否定的評価は微減している。年度別（21→17→17→16%）
- ・ 学年を経るに従って、肯定的評価は増し、否定的評価は減少している。
ただし、1年生の肯定的評価が58%と低いのが気になる。（2年 85% 3年 90%）
1年生のわからない割合が14%と高い。（2年 4% 3年 0%）
- ・ 全体の平均は大差がないので、1年生の評価のパーセンテージはこんなものなのか？

1年生の進路指導をさらに充実させると数字は上がってくるものと思われる。

（2）将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある。

- ・ 肯定的評価は微増している。年度別（57→56→54→57%）
否定的評価は微減している。年度別（34→36→35→30%）
- ・ 学年を経るに従って、肯定的評価は増し、否定的評価は減少している。
ただし、1年生の肯定的評価が44%と低いのが気になる。（2年 71% 3年 89%）
1年生のわからない割合が14%と高い。（2年 5% 3年 0%）
- ・ 全体の平均は大差がないので、1年生の評価のパーセンテージはこんなものなのか？

1年生の場合、教育相談では日頃の生活ぶりなどが話の中心となり、それが進路につながっているとわからないのではないか。進路学習でそういう面もキャリア教育に含まれることを指導していく必要がある。

（3）進路に関する情報が十分に提供されている。

数字が（2）の項目と全部同じである。どちらかが間違っているのではないか。

（保護者）

（1）本校では、こどもに将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。

- ・ 肯定的評価は微増している。年度別（64→75→72→76%）
否定的評価も微増している。年度別（16→13→9→10%）
- ・ わからないと回答している保護者の割合が高い。年度別（20→12→18→14%）

子どもとの日頃の学校の様子などの会話が不足しているのかもしれない。

（2）本校では進路に関する十分な情報提供がされている。

- ・ 肯定的評価は微増している。年度別（57→65→67→71%）

否定的評価も微増している。年度別（22→17→12→15%）

- ・わからないと回答した保護者の割合も高い。年度別（20→12→18→14%）
進路だよりや進路だよりJr.などの情報や学級での進路指導など、学校からの一方向的な情報提供になっているのではないかと。保護者から知りたいと思う情報を聞き取っていくことが必要なのかもしれない。

（3）本校では、進路について保護者が相談する機会が提供されている。

- ・肯定的評価は微増している。年度別（64→71→71→73%）
否定的評価も微増している。年度別（18→16→10→13%）
- ・わからないと回答した保護者の割合も高い。年度別（18→14→19→14%）
1学期に1回、2学期に1、2年は1回3年は2回教育相談を設けている。これ以外にも保護者の要望に応じて、各担任が面談している。もっと機会を設けた方がよいのか？反面、仕事などの都合で、面談をキャンセルしたり、変更したり、土日を希望したり、面談を希望しない保護者も出てきている。

（4）本校の先生方は、親身になって進路の相談にのっている。

- ・肯定的評価は微増している。年度別（55→68→60→62%）
否定的評価は微減している。年度別（16→9→11→7%）
- ・わからないと回答した保護者の割合が高い。年度別（29→23→28→31%）
基本的に中学校としては進路を考える際、最悪の場合を考えて相談を行っている。保護者、生徒の希望や塾との兼ね合いで、保護者、生徒が不本意と感じるアドバイスをしなければならないこともある。うまくいったときはよいが、大きな失敗につながったときの生徒の挫折感をどうしても考えてしまう。当然、生徒一人ひとりの進路の判断は学年全体で行っており、学年の考えを保護者、生徒に伝えることになる。最後は家庭での判断に任せることになるが、中学校の教員の考えも是非参考にして欲しい。「親身になる」という意味をお互いにしっかりと共有しなければならない。

3年を受け持つ教員が他地区からきたり、初めての場合などは進路指導主任や学年教員で進路面談の進め方などの研修や実習は進めていく必要がある。よくわからない教員は3年になってからでなく、1、2年のうちに進路の学年会や査定会に出席し、研修することも考えてもよいと思う。

Ⅱ 学年の課題と解決に向けての取組

1年

全体的

精神的にまだ幼さが多く残っている生徒が多い。その分、言動で他をけなしたり、ふざけてばかりのつきあい方が目立つ。また、全体的に何をやるにしても意欲が低い。

<今後の課題>

リーダーを育てつつ、一生懸命やる大切さと楽しさを教えていく必要があると思う。また、他を思いやる気持ちを身につけられるような取り組みを継続していくことが大切であると感じる。

1. 学習面

- (1) 現状：学習習慣が身についていない生徒が多い。また、教科によって授業態度が変わる傾向がある。基礎的な学力が身についていない生徒数が多く、意欲も低い。
- (2) 対策：キャリア学習を進め、自分のこれからの生き方を考えさせ、現状の自分の課題を確認させ、その対応策を共に考えていく必要がある。

2. 生活面

- (1) 現状：他の悪いところや気になるところばかりに注目し、からかう、バカにするなどの傾向が強い。自己中心的な考え方をする生徒も多い。
- (2) 対策：道徳、学活、キャリア教育などあらゆる場面で、生き方を考えさせていかねばならない。また、話し合い活動などを通して、他者の考え方を理解させていくことも大切である。

3. キャリア教育

- (1) 成果：職業調べ新聞は全員が提出し、クラス発表、学年発表そして学発での発表まですることができた。また、全員分を学発で展示し、小学校でも展示してもらった。

職場訪問はほぼ全員が行い、職場訪問新聞を作成している。PCへの打ち込みの速度が遅く、かなり時間がかかる。

- (2) 課題：2年生の職場体験などに向けて、キャリア教育を進めていかねばならない。

4. 学年行事

- (1) 遠足では班活動として、飯ごう炊さんを実施した。ルールもおおむね守ることができ、協力することもかなりできていた。球技大会でもおおきな問題はなかったが、やはり他をばかにする傾向の強い生徒がいたのでそれを矯正していきたい。

5. 学校行事

- (1) 運動会では上級生の取り組みを見て、1年生なりにがんばったと思う。2年生になるので、3年生を見習いながら、1年生の見本に少しはなれるようにがんばらせたい。
- (2) 学発の合唱でも上級生の取り組む姿勢がかなり刺激になったと思う。リーダーもリーダー性も不足している中で、それを高めていかねばならない。

リーダーの育成とそれをフォローする周囲の育成も必要である。

6. その他

- (1) チャイム着席、登校時刻、授業の準備、授業への取り組みなど生活面の指導を徹底し、落ち着いた学校生活が送れるようにしていくことが最重要課題である。
- (2) キャリア教育を計画的に進めて、自分の課題、目標、取り組んでいく内容を自覚させていく。

2年

○学習面

現 状：授業規律を守るという意識が定着しつつある。(チャイム着席・私語など)
学習習慣の定着の度合いに個人差がある。(家庭学習など)

改善策：授業規律については、今後も継続して指導していきたい。

全体的に学力の向上を図りたい。

授業外での個別指導を恒常的に実施する。

○生活面

現 状：大きなトラブルはないが、ちょっとしたトラブルはいつ起きてもおかしくない。

提出など是可以できるようになったが、遅刻がやや目立つ。

改善策：注意するだけでなく、望ましい生活態度を示していくことも必要である。

生徒個人の判断や自主性を尊重しながら、明確に示すことが必要である。

○キャリア教育（職場体験・進路指導）

成 果：ほとんどの生徒が、体験先を自分たちで見つけることができた。

今年度は、学校周辺の事業所で体験する生徒が多かった。

事業所からは全体として高い評価をいただいたが、取り組み具合は個人差があった。

2者面談や3者面談で進路について話をする機会を設け、意識づけができたように思う。

課 題：当日までの指導をよりていねいに行う必要がある。(できるだろうと思わない。)

自分から動かない生徒もまだいた。

まだまだ社会性の足りなさを感じた。

早い段階で進路指導を行い、進路だけでなく授業に取り組む意欲を高める。

○学年行事（立宵式・校外学習・レク大会・百人一首大会など）

成 果：大変だったが、意見文を書くことで力がついたように思う。

実行委員が積極的・自主的に取り組むことが定着してきている。

課 題：校外学習で行動計画通りにいかなかった班があった。

今後も継続し、徹底するように努力したい。

○学校行事（運動会・学発）

成 果：2年生として行事に取り組み、3年から多くのことを学ぶことができた。

課 題：中心となる意識がまだまだ薄い。

○その他

成 果：八幡中学校の生徒としての自覚が育ってきたように思う。

課 題：まだまだ自分たちの輪の中でしか取り組めていないように思う。もっと輪を広げて、学校全体のことを考えて行動してほしい。

3年

○学習面

現 状：1・2年次に比べてだいぶ学習習慣が身についてきた。また、学力習得確認調査の結果も平均点はどの教科も高い。（上位の生徒もいないが、下位の生徒も少ない）

落ち着かなかつたり・ノートがとれなかった生徒がほとんどいなくなった。

また、特別支援を要する生徒も多いので、学年以外の先生方（講師も含めて）の支援もいただき、進学先が決定できた。

○生活面

現 状：忘れ物、時間、服装など基本的な生活習慣が身についていない生徒がまだいるが、全体的には改善されてきた。

自己中心的な考えかたも少しずつ改善される面も見られるようになった。

○キャリア教育（卒業生のお話を聞く会・上級学校訪問・進路セミナー）

成 果：人の話を聞いて理解できるようになった生徒が増えてきた。自分のことと自覚して取り組める生徒も多くなったが、まだ、『保護者任せになっていた』『保護者が全く理解していなかった』と多少課題は残っている。

○学年行事（百人一首大会・レク大会・卒業遠足・など）

成 果：進路が先に決まった生徒を中心として、いつも限られたメンバーではなく学年全員がいろんな面で活躍できるように実行委員を決めて、彼らを中心として生徒主導で実施できるようになってきた。また、親睦を深められた。

「自分たちでつくりあげる」という気持ちを大切にしたいと考えているので、いつも同じ生徒がリーダーとなるのではなく、いろいろな生徒に機会を与えられた。

○学校行事（修学旅行・運動会・学発）

成 果：修学旅行では、迷うことなく2日間の班行動で1名以外は自分たちで決めたルールを守ることができた。

運動会や学発では、最上級生として頑張ったと思う。

○その他

成 果：学年の教員をはじめ、他学年の先生方がていねいに対応していただいたため、生徒たちとの信頼関係が深く築けたと思います。

C組

○学習

現状： 例年に比べ、落ち着いた環境の中で学習に取り組み、学習の定着を図ることができた。暴れたり、走り出して学校の外に出たり、他の生徒に危害を加える生徒もいることから、常にアンテナを張り、緊張感を持ち、生徒の安全管理第一に授業を行っている。一斉授業とグループでの学習を、生徒の実態を考慮しながら、介添員や支援員を効果的に配置し、連携を取りながらここまで乗り切ってきている。

成果： 学芸発表会、連合展覧会、三校合同音楽会などで一定の成果が見られた。新聞づくりなどの、行事の事前・事後学習における指導方法に生徒が慣れ、円滑に作業が進むようになってきた。

ICTの活用などで視覚的教材や指導方法を工夫し、生徒がより意欲的に学習に取り組むようになった。

今年度も学習ボランティアの支援で、買い物、調理実習、校外学習などを実施し、成果を上げるとともに、グループホーム、保育園に加え、今年は産能大（田中ゼミ）との協同など、新たな取り組みで、教育内容を充実させることができた。

改善策： 個別の対応が必要な、障害の重い生徒もいるので介添員さんの勤務日（日数）は規定の割り当てを大きく上回る回数でいただいている。講師の先生にその日の生徒の状況を細かく伝え、パニックに備える。学識経験者を招き、生徒を定期的に観察していただくとともに、学級の諸問題について意見をいただき教員の研修を充実させていく。

○生活

現状： 障害が重度の生徒は少なくなったが、障害の種類が多様であり、きめ細かい指導が必要でありながら、手が足りない状況である。今年度は全体的にみて女子の指導が困難であった。つきっきりの生徒はいなかったが、多くの場面に付かなければならない生徒が多かった。パニックで暴れたり、器物破損、などは今年も多かった。個別に対応の方法を考え、確認し、対応してきたつもりではあったが、C組の職員だけでは対応できない時もあった。

改善策： 週1回程度、C組で担任会を持ち情報を共有し、指導の連携を図る。また、全校の職員とも学年会や職員会議などで情報の共有化を図る。効果的に介添員を確保して手厚い指導を実践するとともに、目が行き届くようにする。

○その他

・交流（運動会や学発などの行事の参加の仕方）・登下校時の指導（バス利用者のトラブルなど）の問題。・保護者対応の難しさ・教育課程の見直し・進路選択の多様化

Ⅲ 学校の課題と解決に向けての取組

1 地域とともに子どもを育てる教育

(1) 肯定的評価は昨年以上にさらに高まった。また、情報発信について、肯定的な評価が上がった。今後も引き続き、さまざまな機会を通して広報活動を図っていく。

2 信頼と誇りの持てる学校づくり

(1) 学校運営・学校経営に関して、教員の肯定的評価は変わらず高い。さまざまな教育活動に対し、今後も迅速に対応を進める。

(2) 教職員の服務規律や相互の関係など、肯定的評価は高い。安全管理について、少し否定的な評価も見られる。防災・防犯面、それぞれに具体的な対策の検討を続けていく。

(3) 出納・経理、文書・情報管理については肯定的評価が高く、説明責任に堪えられる学校運営となっている。今後も着実に執行していく。